

第4回 流山市市民参加推進委員会 議事録（概要）

- 1 日 時 令和8年1月28日（水）午前10時00分～午前10時30分
- 2 場 所 流山市役所第1庁舎3階 庁議室
- 3 出席委員 関谷委員長、齋藤副委員長、町山委員、竹井委員、井上委員、藤井委員
- 4 欠席委員 無
- 5 傍聴人 1名
- 6 事務局 片平コミュニティ課長、松田課長補佐兼コミュニティ係長、齋藤主任主事、内藤主事
- 7 議題
 - (1) 令和7年度流山市市民参加推進委員会の総括
 - (2) その他
- 8 概要
 - (1) 令和7年度流山市市民参加推進委員会の総括
 - ・令和8年度の答申に向けて、今年度の市民参加推進委員会での議論の総括を行った。
 - (2) その他
 - ・今年度の委員会は今回で最後となり、来年度の委員会の日程については、後日確認することが共有された。
- 9 議事内容
 1. 開会
 - ・流山市市民参加推進委員会が定足数に達していることを確認し、会議が成立している旨が報告された。
 - ・事務局から本委員会の会議が公開であること、傍聴者の許可が行われたこと、傍聴者の遵守事項について説明が行われた。
 - ・配付資料として次第、令和6年度評価シート、答申に向けた質問票、前回の答申が準備されており、過不足がないか確認された。

2. 議題（1）令和7年度流山市市民参加推進委員会の総括

○説明

- ・令和7年度流山市市民参加推進委員会では、令和6年度実施事業の評価を行い、来年度も同様に令和7年度実施事業の評価を予定している。また、2年に1度の答申を作成し、市民参加に関する意見を市長に報告する予定。
- ・答申は委員会で評価した内容を基に作成され、事務局が案を作成するが、最終的な内容は委員の審議を経て意見を反映させる形で決定される。
- ・答申の評価視点として、市民参加の方法の選択と運用、意見収集のスケジュールの妥当性、情報提供の在り方が挙げられ、これらを基に市民目線や専門家目線で改善点を盛り込む予定。
- ・令和4年度及び令和5年度の答申を参考に、令和6年度と令和7年度の評価を合わせた内容を作成する予定であり、今回の委員会では今年度の振り返りを行い、次年度の答申作成に向けた準備を進める。

○市民参加の対象事業

- ・市民参加の対象事業について、料金設定などの具体的な内容に関しては市民意見を反映するのが難しい場合があるが、料金改定による市民の反応を共有することは重要である。
- ・市民参加の対象事業の基準について、担当課が市民参加条例第5条を基に判断しているが、担当課の判断によるため、必要な事業が対象から外れる可能性がある。
- ・市民参加の対象事業の基準を明確化し、影響が大きい事業や市民の関心が高い事業を優先的に対象とする運用基準を検討してはどうかと提案があった。
- ・市民参加の運用基準について、審議の強弱をつけるなど柔軟な運用を行いながら、対象事業の選定基準を委員会で共有し、改善案を答申に盛り込むことが提案された。

○評価シートの改善

- ・市民参加の評価シートについて、前回の指摘や課題を明確に記載し、継続性を示すことで市民が判断しやすくなるよう改善が求められた。
- ・市民参加実施結果シートにおいて、昨年度の委員会の総括コメントを反映した内容が記載されていないことが課題として挙げられた。昨年度の委員会の総括コメントから反映した内容を記載することで、担当課の努力や市民参加の結果が明確に伝わるようにすべきとの意見が出された。
- ・市民参加実施予定シートおよび結果シートの改定について、内容を充実させるために、担当課が市民参加の結果を反映しやすい形で記載する工夫が必要であるとの提案があった。また、委員会での議論を踏まえた改定が可能であることが確認された。

- ・市民参加の内容が全て記載されていないことが指摘され、シート上で議論を進めるために、記載内容を充実させる必要があるとの意見が出された。さらに、紙媒体での確認を希望する意見もあり、シートの物理的な仕様についても改善が求められた。
- ・評価シートの配布時期や検討プロセスについて、スケジュール的な課題が指摘され、令和8年度中に委員も含めた検討プロセスの改善が必要であるとの意見が出された。
- ・これまで指摘された課題を改善するために、シートに反映する内容を工夫し、自治会ベースでの意見聴取など日常的な意見収集の取り組みを記載することが重要であるとの提案があった。

○対象者

- ・流山市市独自の施策として、子供目線の意見を取り入れることが重要であり、子供目線の意見を集めることができるような事業を心がけるべきではないかと意見があった。全事業において実現するのは難しいが、可能な範囲で取り組むことが求められるとされた。
- ・子供たちに関する施策だけでなく、幅広い施策において子供目線の意見を取り入れることが重要である。解釈運用の中で問われる点であり、協議を進める必要があるという意見があった。

○まとめ

- ・次年度の評価の中でも気づいた点を共有していきながら進めていき、今回出た論点についても、答申作成段階で意見を集約し、答申として市長に伝えていくことが確認された。

3. 議題（2）その他

- ・今年度最後の委員会であるため、来年度の委員会の日程調整が必要であることが説明された。
- ・委員会終了後に候補日をメールで案内し、2月13日金曜日までに回答を求める予定であり、回答が難しい場合は事務局に相談するよう案内があった。

[閉会 10時30分]